

産業振興

どう進める

黒潮印

まだ認定機関はないが・・／町長

問

① 高知県は地産外商として、銀座にアンテナショップを開設するという。本町の特産品はその店頭にどのようなものが並ぶのか。町はこのショップを活用し特産品の販売促進につなげていくつもりはないのか。

県のアンテナショップは県内特産品の販売競争の場、その県内の競争で、勝てる商品、特徴あるものを作ろうというのが、高知県産業振興計画に認定されている黒潮印だと思



議員 あや 坂本 さかもと

町は黒潮印商品開発について民間の方々と共に検討を進めた。その結果一定の基準を決めた経緯がある。黒潮印の商品認定機関を早急につくり、町としての特産品の奨励を図るべきではないか。

また、黒潮印の商品とは、食品だけではなく、グリーンツーリズムやブルーツーリズムのような旅行パック等も黒潮印の商品といえる。様々な商品を、町長の認定証をつけて売り出すことが必要ではないか。

重ねて、特産品の販売は、コミュニティビジネスを推進することである。サトウキビ、カツオ、ドクダミ、七立栗など地域は独自の取り組みで頑張っている。町の支援が求められる。

② 本町の土佐西南大規模公園はたくさんのスポーツが開催できる有効な施設である。この施設を有効に活用した観

光事業を本格的に行うべきではないか。

雇用促進協議会においても、有名なスポーツクラブや学校の合宿誘致を行っているが、受け入れ態勢において十分な機能が無いためにこれ以上の誘致活動が進められないという報告もあがっている。問題を解決し誘致を進めるべきではないか。

答

下村町長

松田産業振興課長

① 県の産業振興計画は、地産外商という目標があり、東京アンテナショップが22年7月開設される予定である。

そこへの出品は、大変レベルの高い商品の基準が定められている。基準を満たす商品の質、衛生管理等の適正化が問われ、それらの条件を満たす業者が直接面談し、商談する必要はある。県の地産地消外商課が募集したい商品があれば各社を訪問し、必要事項など協議し商品計画を取りまとめたい考えのようだ。

本町として、推薦する特産品等は決めていないし、黒潮印についても具体的な取り組み等の計画も立てていないが、

黒潮町内で作られているいろいろな産品を確認してそのグループ、会社なりに出品を促すよう積極的にやってみていかなければならないと思っている。

また、観光面と特産品によるコミュニティビジネス創出は、イベント等でPRを行うことや、カツオや黒砂糖の体験学習を行う等、今まで以上に、報道関係を活用し特産品の地産地消や地産外商による地域経済の活性化を図りたい。

② 観光産業の育成は幡多広域観光協議会を法人化するよう取り組んでいる。体験型の教育旅行、一般客の誘致、体験プログラムや受け入れ団体の充実を砂浜美術

館や雇用促進協議会とも協議しながら、黒潮町に來客してもらえよう体制整備をする努力が必要と考えている。

また、土佐西南大規模公園のスポーツゾーンを生かした交流人口の受け入れについては、体育館をはじめサッカー場、陸上競技場、テニスコート、パークゴルフ場等が整備されており、中学校、高校、一般の各種大会、スポーツの愛好者の利用が大変多い。

大学テニス部の合宿なども行われ、雇用促進協議会を中心に砂浜トレーニング、およびスポーツ施設を活用したアスリートの合宿誘致の可能性について取り組みを進めている。



高幡議員スポーツ大会で優勝（パークゴルフ場にて）